

宮崎市教育委員会等との連携協力

宮崎市教育委員会との令和4(2022)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3、4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3、4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

5 大宮中学校における不登校生徒への支援活動

教員を目指している学生が、不登校生徒への支援活動を行う。

●3年生4名参加

6 その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

① サマースクール支援（夏季休業中）

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

③ 英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3、4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30（2018）年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

7 第15回ひむかかるた競技大会

令和4年11月26日（土）宮崎公立大学体育館において開催した。

- (1) 目的 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技を通して、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
- (2) 主催 ひむかかるた協会
- (3) 共催 宮崎市教育委員会 宮崎公立大学
- (4) 後援 宮崎県教育委員会
- (5) 競技種目 団体戦
- (6) 参加資格 小学生の部 県内在住の小学生

※ 詳細は89ページに掲載

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2、3年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。

●2年生12名参加

<宮崎市教育委員会主催>

宮崎市特別支援教育学生ボランティア活動（1年）

教員を目指す学生に対して、特別支援教育の理解を図るための機会を提供する。

●4年生5名参加

| 行 事 名 | 第 15 回 ひむかかるた競技大会 |
|---------|--|
| 目 的 | 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。 |
| 実施日時等 | 令和 4 年 11 月 26 日（土）9 時 00 分～15 時 30 分 |
| 会 場 | 宮崎公立大学 体育館 |
| 主 催 | ひむかかるた協会 |
| 共 催 | 宮崎市教育委員会・宮崎公立大学 |
| 後 援 | 宮崎県教育委員会 |
| 競 技 種 目 | 団体戦 |
| 参 加 資 格 | 小学生の部：県内在住の小学生 |
| 参 加 者 数 | ひむかかるた競技：8 小学校より、団体戦 20 チーム 合計 60 名 |
| 参 加 料 | 無料 |
| 資 格 等 | 団体戦各小学校 4 チームまで。 |
| 競 技 方 法 | 団体戦、個人戦とともに予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦にて行う。予選リーグの対戦については、事前申し込みに従い前日までに実行委員会が代理抽選にて決定する。 |
| 競 技 規 则 | 別に定める「ひむかかるた大会競技規則」による |
| 審 判 | 競技規則に基づき公認審判員が努める。 |
| 表 彰 | 1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。 |

宮崎公立大学と市教育委員会の協力の下で誕生した、宮崎の郷土かるた「ひむかかるた」の競技大会を、およそ 2 年半ぶりに完全対面型で開催した。

競技には、市内県内 8 小学校から、団体戦（3 人 1 チーム制。各小学校 4 チームまで参加）20 チーム 60 名が参加した。今回はポストコロナ後初となる本格開催となつたが、未だ完全な形での被害拡大の収束を迎えていない状況を鑑み、午前中の予選リーグを 3 試合とし、種目を団体戦のみとするなど、従来よりも縮小規模で臨んだ。

参加校は 8 校に留まつたものの、真剣に試合に臨む子供たちの姿勢には目を見張るものがあつた。また、各選手の力量も、コロナ前と比べそん色なく、コロナ禍にあっても各学校の教育現場においては、かるたに熱心に取り組んでいただいたことが確認できた。公立大、市教育委員会の共催の下で、大会規模、かるた普及の完全回復、さらなる発展をめざしてきていると考える。

【競技のもよう】

- ・午前 10 時 00 分より開会式、引き続き第一試合が行われた(コロナ禍後の規模縮小方針により、開会式は簡素され、従来の来賓祝辞等も見送られた)。
- ・競技は団体戦のみで争われ、昼休憩(12 時～13 時)をはさみ、午前中は予選リーグ 3 試合、午後は決勝トーナメント 3 試合が行われた。
- ・団体戦は宮崎南小学校 A チームが優勝した(個人情報保護の観点からチーム名、選手名は記さない)。決勝は宮崎南小学校勢同士の戦いとなった。宮崎南小学校からは 4 組が参加したが、いずれも強力メンバーをそろえたチームばかりであった。
- ・参加校数選手数とも、コロナ禍直前に行われた第 13 回大会の半数ほどではあったが、試合ではコロナ前同様に、ハイレベルな技の攻防が相次いだ。特に午後の決勝トーナメントでは、白熱した試合が展開された。
- ・今回も宮崎南小学校が上位を独占する結果となった。宮崎南小学校では、ひむかかるたを用いた教育、課外活動等、独自の活動をここ数年行っていた。コロナ禍においてもその取り組みは継続して行われており、今回もその成果が反映されたものと考えられる。
- ・今回出場した 8 校は、コロナ禍において協会による訪問普及活動も規模縮小を余儀なくされた中でも、かるたを用いた教育に継続的に取り組んでいただいた学校である。今回の大会では、コロナ禍にあっても、現場の教諭の方々や子供たちが、日ごろからかるたに真剣に取り組んでくれていたことが確認できたと考える。

【今大会の特徴】

①大会開催期日と規模

- ・今大会を開催するにあたり、年度当初はコロナ禍鎮静の可能性がまだ見えていなかったことから、開催計画においては、年度当初から複数案を計画的に配置しながら決定した。具体的には当初コロナ禍にある一定以上の収束がみられた場合には、第 1 案として 11 月 26 日の従来規模での開催を目指し、その後状況を見ながら大会規模や時期の順延を検討することとした。
- ・結果としては令和 4 年 9 月以降、コロナ第 7 波が収束に向かっていったことから、規模を縮小し、感染対策を十分に行なったうえでの開催となった。

②企画・運営・演出面

- ・大会規模の縮小として、種目数の削減(団体戦のみの開催)、試合数の削減による開催時間の短縮、開会式・閉会式も大幅に縮小して実施した。また、選手、観戦者の安全面に、マスクを着用しての対戦とし、一試合ごとに各コートの消毒を行った。
- ・演出面では、第 12 回、13 回大会で実験的に行った団体戦参加のチーム名登録を、本年度も引き続き義務化した。これは、チームとしての一体感を出すとともに、子供たち自身とふるさと宮崎の関係について考えてもらうことを狙ったものである。大会当日は、昨年度にも増して子供たちの宮崎愛を感じさせる、ユニークで個性的な名前のチームで満ち溢れることとなった。
- ・運営面では、これまで好評だった BGM による演出は今年も行われた。特に昨年シンガーソングライターの大野勇太氏に作詞・作曲を依頼した「ひむかかるたの歌」をイメージソングとして随所に流すことで、大会全体のまとまりたいたいイメージ作りをすることができた。
- ・また、大会運営に当たり、昨年同様ひむかかるた事業協力校の先生方、小学生、ひむかかるた OB の中学生たちに参加いただき、大会を大いに盛り上げていただいた。近年の大会で見えてきた「子供たち及び先生たちのひむかかるた」という大会の性格も、かなり明確になってきたと考える。審判、あるいは運営スタッフとして大会に参加することは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与える。大会を追うごとに運営に子供たちがかかわる傾向は、本来の

かるたの魅力、事業の狙いから考えれば、まさに理想的な展開であるといえる。今後ますますのかるた普及への効果を期待して充実したものとしていきたい。

- ・事前告知、事後の報告については、大会の事前広報活動（大会告知、宣伝ポスターの発行）や当日の運営の主要業務はひむかかるた協会事務局を中心とした実行委員会が行った。特に今回は無理のない参加をお願いする観点から、各小学校への訪問指導や宣伝ポスターの配布等は最低限度とし、協会ホームページでの情報発信を中心とした。

③参加学校について

- ・参加校数については、コロナ禍直前に行われた第13回大会の17校から半減し8校となった。しかし前述のように、大会における選手たちの熱量、技量にはコロナ禍以前に比べても決して劣らないものが確認できた。またこの2年間は協力校事業も大幅に縮小を余儀なくされたことも併せて考えると、むしろ今後のかるた事業の立て直しと発展を考えるうえで、前向きに評価されるべき数字であったと考える。

④「ひむかかるたオープン戦」および「ひむかかるたシンポジウム」について

- ・令和5年2月23日に、「ひむかかるたオープン戦」および「ひむかかるたシンポジウム」を宮崎公立大学において開催した。これはコロナ禍での各小学校の取り組みの継続や発展が確認できたこと、かねてより幼児教育における各園での取り組みとの連携、中学生以降のかるたOBとの接続等をにらみ、今後のかるた普及活動を方向付けるためのイベントとして急遽企画されたものであり、オープン戦は宮崎公立大体育館、シンポジウムは宮崎公立大103教室にて開催された。
- ・9時30分～11時30分に行われた「ひむかかるたオープン戦」は、全試合団体戦のみ、セルフジャッジ式3試合(予選リーグ2試合、優勝決定戦1試合)とし、各リーグごとの優勝を争う形式とした。年齢・居住等の参加資格を問わない形で参加を募集したところ、県内外から38チーム114人が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しく覇権を争った。
- ・午後からのシンポジウムでは、ひむかかるたの創始者であり、協会顧問でもある新井克弥氏(関東学院大教授)をコーディネーターに、かるた大会を含む、これまでの普及活動を総括し、今後の方向性の模索が議論された。構成は下記のとおりである

第1部 事例報告

- ・佐多 修(宮崎市立宮崎南小学校)「教室にひむかかるたを～つなぐ・ひろがる・ひびきあう～」
- ・山口 孝治(宮崎市立宮崎西小学校)「かるたがつなぐ、かるたとつなぐ」
- ・橋口 隆子(うちやまこども園)「遊びの中の学び～宮崎大好きっ子～挑戦！勝負の楽しさ？」

第2部 パネルディスカッション

討論者

内藤 泰夫 (前宮崎県芸術文化協会会长、元宮崎公立大学理事長)

白石 知子 (宮崎国際大学教授)

山森 達也 (アーツカウンシルみやざき・プログラムディレクター)

コーディネーター

新井 克弥 (関東学院大学教授)

【今後に向けて】

- ・「ひむかかるた大会」をはじめとする一連のひむかかるた普及事業については、これまで「ひむかかるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の強力な支援を仰ぎながら、順調な発

展をとげることができたと考える。宮崎公立大学から、地域への地域貢献としてスタートした事業が、10年を経て地域に根付き、地域と公立大が連携して行う活動へと育ちつつあることを、あらためて実感する次第である。

- ・とりわけ本年度については、従来の活動が、現場の先生方のご尽力により、コロナ禍の中で継続できることは大きい。小学校に加え、保育園・幼稚園における普及活動も、コロナ禍においてなお継続していただいている。ここ数年来の課題であった、幼児期、小学校、中学校とつなげ、故郷に対する単純な愛着心を作るだけでなく、広く協同性や寛容性をも育む、新しい郷土の実現に向けて、再びスタートする元年になったと考える。
- ・新型コロナウィルスの位置づけが5類に変更される令和5年度以降、この方向性を基本しながら、ポストコロナ状況を鑑みつつ全体プランを練り直し、かるたの普及に努めていきたいと考える。これまでの活動において、宮崎公立大、市教育委員会及び各小学校との間に作ってきた協力関係をベースに、新たに宮崎保育会の支援もいただきつつ、幼少期から活動として発展させていきたい。
- ・ひむかかるた関連事業は、令和5年度には16年目を迎える。これまで活動を発展的に継続できたことに関して、関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

文責・梅津 頤一郎（本学人文学部准教授、ひむかかるた協会会长）

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

◎ 令和4(2022)年度業界研究セミナー講師派遣 (宮崎銀行)

本学が実施した業界研究セミナーに、講師として行員を派遣いただいた。

(1) 実 施 日 令和5年1月19日 (木)

(2) 参 加 者 数 5名

◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で実施する学生の企業・自治体
インタビューの受入を行っていただいた。

(宮崎市地元とつながる人材育成支援事業/「宮崎×キャリア」の探求 2022)

(1) 実 施 日 令和4年11月29日 (火)

(2) 参加学生数 宮崎銀行 10名・宮崎太陽銀行 11名

宮崎商工会議所との連携協力

1 日商簿記検定

日商簿記検定(第 161 回検定)の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

- ・実施日：令和 4 年 6 月 12 日（日）

2 みやざき観光・文化検定

みやざき観光・文化検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

- ・実施日：令和 4 年 12 月 18 日（日）

宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社から、その講義に、記者などを講師として派遣していただいている。

※令和4（2022）年度後期「時事問題ガイド」（主に1年生対象科目）

令和4年9月30日（金）～令和5年1月27日（金）15回講義を実施

令和4年(2022年) 10月1日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日 (1) ~公立大学時事問題講義から 新聞の基礎

宮崎の明日

「新聞はどうも同じ」ではない。一番の違いはニュースの価値判断。宮日は本県の事柄を中心に記事の扱いの大小を判断しており、編集に際し宣下拓みやした・たく二
ユースセン
ターナー部参
事。201
4年入社。
4年
22歳。
52歳。
か読
横浜市出身。
都城支社長。
現職。編集委員、
者室長などを経て
52歳。

【新聞の基礎】

「新聞はどうも同じ」ではない。一番の違いはニュースの価値判断。宮日は本県の事柄を中心に記事の扱いの大小を判断しており、編集に際し宣下拓みやした・たく二
ユースセン
ターナー部参
事。201
4年入社。
4年
22歳。
52歳。
か読
横浜市出身。
都城支社長。
現職。編集委員、
者室長などを経て
52歳。

【新聞の基礎】

「伝える力」身に付く

【学生の感想】

【3年、井久保幸鷹さん】インターネットで玉石混交の情報を浴びるように受信する中、情報の価値判断を行い、自身で選択を行うことを習慣付けていきたいと思う。新聞は情報の中でも重要な部分と枝葉の部分を区別する方法を学ぶのに役立つと思う。

【1年、岩尾百香さん】授業のプレゼンなどで、だらだら過程を話すのではなく最初に結論を話すよう心がける。

【1年、森楓華さん】伝える力を伸ばすため、客観的の視点を持ち正確に理解できる情報発信を心がける。地方紙宮日を読むことで読者に寄り添う文章を学ぶことができる。

【1年、奈須成美さん】人に物事を伝える際、より相手が理解しやすい言葉選びは重要で、事実や意見を裏付ける根拠や経験を加えることで説得力が増すと考える。新聞はさまざまな分野が掲載されているため、文章を読むことに興味を持ちやすく、取り組むきっかけになると考える。

【3年、佐藤翔悟さん】端的にまとめる力、興味を抱いてもらえるワードセンスを磨く必要がある。新聞を読むことで5W1Hの基礎や語彙(ごい)力を伸ばし、話す際の順序立てができるようになるのではないか。

令和4年（2022年）10月8日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（2）～公立大学時事問題講義から

NIE

宮日と考える
～公立大時事問題講義から

宮崎の明日

NIE

黒木友貴（くろぎ・ともか） 読者局
記者室読者企画委員。編集部入社。1993年5月。都城市出身。52歳。

NIEという言葉を聞いたことがあるだろうか。これは「News paper In Education」（教育新聞を）というもので、教員たちが読者局として、読書会や地域活動などを通じて新聞を作り、新聞の発行をはじめ、窓欄企画、出前授業、「学校若い目」など、NIEがやつてくる」など、NIEに関する紙面作りや活動を展開。県NIE推進協議会は、宮崎日日新聞では宮日こども新聞を作りはじめ、窓欄企画、出前授業、「学校若い目」、出前授業「学校へ」など、NIEという言葉になじみはないなかつたが、新聞を使った授業を受けたことがあり、知らないうちにNIEを経験していたと分かった。新聞を通じて社会情勢などを知り、教育現場で理解を深めていくことが大切だと感じた。

【1年、西永陽菜さん】小學生の時、新聞作りなどの活動を通じて新聞の面白さに気付いた。NIEは新聞を読む良い機会になるので、これからも続けてほしい。

【1年、今村日向子さん】NIEという言葉になじみはないなかつたが、新聞を使った授業を受けたことがあり、知らないうちにNIEを経験していたと分かった。新聞を通じて社会情勢などを知り、教育現場で理解を深めていくことが大切だと感じた。

【1年、柏田彩花さん】読解力の養成やキャリア教育など、NIEには無限の可能性がある。

育現場で新聞を教材として活用する取り組みだ。

NIEは1930年代に米国で始まり、日本では1985（昭和60）年の新聞大會で提唱されスタートした。デジタル化やグローバル化で急速に社会が変化する中、課題解決やアイデアの創造を可能にする「自ら学ぶ力」を身に付けることが子どもたちに求められており、そのためにもNIEによって読解力を磨き、社会への関心を高めることが必要となっている。

宮崎日日新聞では宮日こども新聞の発行をはじめ、窓欄企画、出前授業、「学校若い目」、出前授業「学校へ」など、NIEがやつてくる」など、NIE実践の輪を広げていくのが課題となる。

「自ら学ぶ力」を創造

会と連携し、学校での新聞活用を進めている。今年8月に開催された。本県では初開催で、宮崎のNIE活動における大きな節目となつた。

学校現場におけるNIEの取り組み内容は多種多彩だ。授業内容と絡めて新聞記事を活用するといった基本的なものから、記事やコラムの要約、学校行事を取材しての壁新聞作りなど、先生たちの創意工夫が凝らされている。

NIEの先にはNIB（ビジネス新聞）という活動もあり、今後ますますNIEへのニーズは高まっていくだろう。これからは、いかにしてNIE実践の輪を広げていくかが課題となる。

学生の感想

【1年、西永陽菜さん】小學生の時、新聞作りなどの活動を通じて新聞の面白さに気付いた。NIEは新聞を読む良い機会になるので、これからも続けてほしい。

【1年、今村日向子さん】NIEという言葉になじみはないなかつたが、新聞を使った授業を受けたことがあり、知らないうちにNIEを経験していたと分かった。新聞を通じて社会情勢などを知り、教育現場で理解を深めていくことが大切だと感じた。

【1年、柏田彩花さん】読解力の養成やキャリア教育など、NIEには無限の可能性がある。

があり、NIE全国大会宮崎大会スローガン「いまを開き未来を拓（ひらく）NIE」は、まさにそうだなど感じた。

【1年、佐々木美和さん】NIEという取り組みを初めて知ったが、新聞を取っていない家庭の子供でも新聞に触れる機会が得られ、とても良いことだと感じた。

【1年、山口あいりさん】小学生のころ宮日こども新聞を読んでいて、俳句や短歌のコーナーに作品が掲載され、うれしかった記憶がある。これからも新聞を読み、自ら考える時間を持つことで、社会に出たときに役立つ力を身に付けられると思う。

（7日の講義から）

令和4年（2022年）10月15日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（3）～公立大学時事問題講義から

台風 14 号と災害報道

宮崎の明日
～公立大時事問題講義から～

化部次長、論説委員、生活文化部長を経て2022年4月から現職。都城市出身。51歳。

猛威を振るつた先月の台風14号。本県への影響や被害を記事と写真で振り返るとともに、災害時における地方紙の役割について考えたい。

中川美香（なかがわ・みか）報道部長。1993年入社。南支社、文部省報道部、日

困っている住民がいる。そのために山間部の被害は深刻で、道や橋の崩壊で孤立状態になつた集落も目立つた。今まで買いたい物や通院、通学などに影響は長引き、農林漁業被害、さらに五ヶ瀬町のスキーリフト、今冬営業終了など各種産業が打撃を受けている。関係者の落胆は大きい。

51歳。

台風14号と災害報道

▽▽3

台風は18日に本県に最接近し、県内15市町村で大雨特別警報が発表され、県北部で線状降水帯の発生が2回確認された。降り始めからの総雨量は美郷町神門で千ミリ近くに達した。被害は大きく、3人が亡くなり、家屋の浸水、土砂崩れによる道路の寸断などがあつた。停電、断水、鉄道の運転乱用合わせなど暮らしへの影響は長引き、農林漁業被害、さらに五ヶ瀬町のスキーリフト、今冬営業終了など各種産業が打撃を受けている。関係者の落胆は大きい。

特に山間部の被害は深刻で、道や橋の崩壊で孤立状態になつた集落も目立つた。今まで買いたい物や通院、通学などで助けを求める声を伝えることで、復旧を手伝う人が増えるなど県全体が協力的になる。

【1年、蓑崎桃花さん】大きな被害が出た台風だったのだと実感した。特に被害が出た地域で、住民が互いに支え合っていたことも分かった。

【1年、川口倫加さん】被災した地域や住民の声に注目することが大切だと思った。助けを求める声を伝えることで、復旧を手伝う人が増えるなど県全体が協力的になる。

【4年、矢野伊吹さん】地方紙は住民とのつながりが強い。被災した地域から「現状を知つてほしい」と連絡も来ていた。被害の報道だけでなく、県民に役立つライフルライン情報も提供していて、「ブ

復興への道のり共に

思いや地域の現状を宮崎日日新聞社の支局・支社、報道部、写真映像部の記者たちが現場に足を運んで伝えている。人口が減少し担い手も少ない中で、住民が安心して暮らせる地域をどうつくっていくか。台風14号が投げかけた課題は大きく、議論が必要だ。地域をどうつくっていくか。台風14号が投げかけた課題は大きく、議論が必要だ。災害報道は、起きたことを伝える、記録する▽節目ごとの検証▽防災・減災に向けた啓発などが大切といわれる。地方紙にはこれに「住民に的確に危険性を伝える」「ライフルライン情報など役立つ記事を出す」、そして「復旧・復興までの道のりを共に歩む」姿勢が重要と考える。住民に寄与するのが本紙の責務だ。

学生の感想

【1年、蓑崎桃花さん】大きな被害が出た台風だったのだと実感した。特に被害が出た地域で、住民が互いに支え合っていたことも分かった。

【1年、川口倫加さん】被災した地域や住民の声に注目することが大切だと思った。助けを求める声を伝えることで、復旧を手伝う人が増えるなど県全体が協力的になる。

【4年、矢野伊吹さん】地方紙は住民とのつながりが強い。被災した地域から「現状を知つてほしい」と連絡も来ていた。被害の報道だけでなく、県民に役立つライフルライン情報も提供していて、「ブ

ラスアルファ」を報道しているのが地方紙だと認識した。

【1年、川原なおさん】地域の復旧・復興に向け大切なのは、現状を知り自分でできることを探すことだと思った。視野を広くして新聞記事やニュースを見ていきたい。

【3年、井久保幸鷹さん】過去の災害の記憶や被害が出てやすいコースなど、地域に根差したメディアならではの蓄積があるよう感じた。また生活をどう取り戻していくかという視点で、災害後の状況を伝えている点が印象的だった。地方紙の当事者意識の強さは、大手メディアと比べたとき、大きな特長だと思う。

（14日の講義から）

令和4年（2022年）10月29日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（4）～公立大学時事問題講義から

全国和牛能力共進会

宮日と考える
公立大時事問題講義から

宮崎の明日

▽▽4 全国和牛能力共進会

まだ興奮冷めやらぬ全国和牛能力共進会（全共）鹿児島大会（6～10日のチー宮崎の活躍を振り返り、全国2位の規模を誇る本県の和牛生産

奈須貴芳（なす・たかよし） 報道部次長。2002年入社。2年間、経済部次長として宮崎市出身。44歳。

宮崎の明日は、全国和牛能力共進会（全共）鹿児島大会（6～10日のチー宮崎の活躍を振り返り、全国2位の規模を誇る本県の和牛生産

にについても理解を深めたい。鹿児島大会で県勢は新設された肉牛の部7区（脂肪の質評価群）で優等首席（1位）に輝き、同部の最高賞・内閣総理大臣賞も獲得。3区でも優等首席、全9区分中5区分で優等2席（2位）となつた。大きなアレッシャーの中、「日本の努力と準備」を宣言葉に快挙を成し遂げた関係者に敬意を表したい。

特に7区を制した意義は大きい。同区はサシの量だけでなく、うま味や口溶けに影響するなど、脂の質にも着目して順位付け。多様化するニーズに対応した和牛の新たな価値観を示す注目区で、今後5年間、「おいしさ日本」をPRしていく。

和牛に新たな価値観

県産牛の輸出は2016年度は2280頭だったが、20年度は686頭まで増加し、今後はイスラム圏への売り込みも加速する。和牛生産は、製造や運輸、観光など関連産業への経済的な波及効果も大きくなることを期待したい。

【1年、吉田智貴さん】和牛生産は経済効果が大きい産業だと分かった。これからも良い成績を収めて海外に宮崎牛をアピールし、宮崎の経済が潤うことを期待したい。

【1年、山口航史さん】多くの関係者の宮崎牛に対する熱い思いを知り、食材を無駄にせずおいしく頂くことで感謝を伝えたいと思った。

【1年、田上栞菜さん】全共で競い合うことで、お肉の質が向上していると気付いた。鹿児島県出身で地元の活躍も知ることができた。いつかは生で全共を見てみたい。

【1年、鎌田倭さん】2010年に宮崎県で発生した口蹄疫の説明もあり、それを乗り越えて内閣総理大臣賞を獲得し続けているのは、計り知れない関係者の努力があるからだろうと感じた。

【1年、長井薫葉さん】焼き肉屋でアルバイトをしており、「宮崎牛おいしいね」と言わることも多い。全共や生産者のことを学び、宮崎牛をより宮崎の強みにすべきだと思った。

【2年、平田萌さん】繁殖農家と肥育農家の違い、種雄牛（しゅゆうぎゅう）や種牛、肉牛などについて知ることができた。全共に向けては人と同じように毎日シャンプーすることに驚いた。

（28日の講義から）

学生の感想

【1年、吉田智貴さん】和牛生産は経済効果が大きい産業だと分かった。これからも良い成績を収めて海外に宮崎牛をアピールし、宮崎の経済が潤うことを期待したい。

【1年、山口航史さん】多くの関係者の宮崎牛に対する熱い思いを知り、食材を無駄にせずおいしく頂くことで感謝を伝えたいと思った。

【1年、田上栞菜さん】全共で競い合うことで、お肉の質が向上していると気付いた。鹿児島県出身で地元の活躍も知ることができた。いつかは生で全共を見てみたい。

【1年、鎌田倭さん】2010年に宮崎県で発生した口蹄疫の説明もあり、それを乗り越えて内閣総理大臣賞を獲得し続けているのは、計り知れない関係者の努力があるからだろうと感じた。

【1年、長井薫葉さん】焼き肉屋でアルバイトをしており、「宮崎牛おいしいね」と言わることも多い。全共や生産者のことを学び、宮崎牛をより宮崎の強みにすべきだと思った。

【2年、平田萌さん】繁殖農家と肥育農家の違い、種雄牛（しゅゆうぎゅう）や種牛、肉牛などについて知ることができた。全共に向けては人と同じように毎日シャンプーすることに驚いた。

（28日の講義から）

令和4年（2022年）11月5日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（5）～公立大学時事問題講義から 新聞における写真の役割と力

宮日と考える
（公立大時事問題講義から）

▽▽▽ 5

宮崎の明日

記事や写真、イラストなどが配置された新聞紙面は見やすく、読む人の理解も早い。記事で表現することが難しいものでも写真一枚で伝えられる。読者に目を留めて記事を読む。

中島雅隆（なかしま・まさと）写真映像部長。1987年入社。写真部次長を経て、2015年58歳。宮崎市出身。

新規写真の役割と力

読んでもらうため、よりインパクトのある写真を撮ることが求められている。デジタル化も重視している。「ラッピング」といつて一枚写真を2ページ見開きで掲載したり、季節の便りをパノラマ写真で紹介したり、読者にインパクトを与える紙面づくりに努めている。昨年4月からはモノクロ写真をカラーワード化する「色の記憶」を連載。読者は好評を得ている。

インタビュー記事にはボーナス写真を使う。これは、本人にきちんと取材したという証明で記事の信頼性を高めるのだ。また、顔写真も同じような意味を持つ。これでは、顔を識別できる写真の正しさが認められているからだ。

2016年4月の熊本地震の際は、女子プロゴルフ取材のため写真映像部員が熊本市内に滞在していた。すぐに無事を確認し、「取材しながら避難せよ」と指示。危険も伴つただろうが、目の前で何かが起こればレンズを向けるのがカメラマンのさがだ。

スポーツ面で同「競技を数枚掲載するときは、さまざまにシーンを見逃さないように撮影している。同じような写真が並ぶと、変化に乏しい紙面になりかねない。スポーツ面に限らず次に何が起てるかを予想しながらファンダーラーのぞき、「富崎の今」を切り取っている。

学生の感想

【1年、奈須成美さん】パノラマで撮られた写真は、その場所や景色の全体像を見ることができ、実際に自分がそこにいたように思える。紙面に大きく載っていると迫力をを感じることができる。

【1年、高城結衣さん】写真は現場の様子を伝えるだけでなく、写真は正確であり信用性があるということがわかった。写真の持つ意味が理解できたので、記事と合わせながら大事に見ていきたい。

【1年、濱砂慧花さん】新聞写真是加工なしで情報を無駄なく正確に伝え、しかも読者

の心に確実に届く。季節の移り変わりを伝える1枚でも思いが込められて撮影されている。

【1年、戸高愛理さん】写真はただ対象のものを写すだけでなく、一つのテーマでもたくさん下見を行って掲載していくことが理解できた。読者に、一目で印象的に思える写真を選ぶまでの過程が分かった。

【2年、西村皇希さん】予想だにしない状況に遭遇しても、少しでも記録に残さなくてはという信念の強さを垣間見ることができた。状況に応じて一眼レフやスマートフォンなどを使い分けていることに興味を感じた。

（4日の講義から）

令和4年（2022年）11月12日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（6）～公立大学時事問題講義から

ラグビー日本代表とW杯

宮日と考える
公立大学時事問題講義から

宮崎の明日

▽▽6



齐藤真広（さいとう・まさひろ）編集委員長。1991年入社。運動部次長、報道部次長。2022年4月から現職。宮崎市出身。55歳。

2019年にラグビーのワールドカップ（W杯）が日本で開かれ、日本代表が初のベ

スト8に進んだことは記憶に新しいだろう。日本代表は宮

崎で強化合宿を続けている。

11年から定着し確実に力を付け、W杯で結果を残した。

1990年に初めて合宿を行

い、2000年前後にも訪

れたが、実力は世界から見る

かに後れを取っていた。宮崎

合宿も一時途絶えたが、11年

から定着。最高の環境の中、

選手の意識改革

日本人の強

みを生かした戦略などチーム

の整備が進んだ。結果、15年

のW杯では、屈指の強豪・南

アフリカを下し「世紀の番狂

わせ」と世界を驚かせた。19

年には予選リーグ4戦全勝で

決勝トーナメントへ進んだ。

日本代表が合宿地に宮崎を

が大きい。2000年以前に

が、ほとんど手弁当で宿舎の

手配や練習場確保などに動いた。11年からは県や県ラグビ

ー協会がバックアップする。

その熱意やサポートも、日本

ラグビーW杯は、五輪やサ

ッカーW杯と並ぶ世界三大イ

ベント。23年にはフランスで

ラグビーW杯がある。県は日

本代表の拠点を問い合わせ

トレーニングセンター建設を

進める。さらにサッカーなど

のトップレベルのチームを呼

び込み、宮崎の発信と大きな

経済効果も期待している。

来年のW杯メンバー入りを

現することで、ラグビーを通

して世界に多様性を広めること

ができると考える。

【1年、田上栞菜さん】屋外型トレーニングセンターなど、スポーツ施設が増えるのはいいこと。観光面でも宮崎を象徴するものになるのではないか。ラグビー日本代表の拠点にもなるのだから、ラグビーファンに聖地のような認識を持つてもらえたらしい。

【1年、柏田彩花さん】宮崎で合宿した後、2015年W杯で南アフリカに勝ったことは誇らしい。スポーツを通しての経済効果も大きく、宮崎は「スポーツの県」と改めて感じた。

（11日の講義から）

学生の感想

【3年、井久保幸鷹さん】日本代表の宮崎での活動や、地元の人々のサポートなどが細かく記事になっている。地元と、全国や世界の動きとどのようなところでつながっているか確認できるのも、地方紙の面白さだと感じた。

【1年、西嶋彩乃さん】日本代表の飛躍は、選手の力だけでなく、地元の力もあるのだと知り、「支え」の大切さを学んだ。

【1年、西永陽菜さん】ラグビー日本代表には外国人選手も多くいることに驚いた。しかし、チームが多様性を体

宮崎から勝利後押し

道部次長、日南支社長、整理長などを経て2022年4月から現職。宮崎市出身。55歳。

手配や練習場確保などに動いた。11年からは県や県ラグビ

ー協会がバックアップする。

その熱意やサポートも、日本

ラグビーW杯は、五輪やサ

ッカーW杯と並ぶ世界三大イ

ベント。23年にはフランスで

ラグビーW杯がある。県は日

本代表の拠点を問い合わせ

令和4年（2022年）11月19日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（7）～公立大学時事問題講義から

コロナ禍行政と報道の役割

宮日と考える
公立大時事問題講義から

宮崎の明日

▽▽▽ 7

コロナ禍 行政と報道の役割

伊佐賢太郎（いさ・けんたろう）報道部入社。99年9月。南支社、西都支局、ループ次長などを経て現職。48歳。

新型コロナウイルスの感染拡大は暮らしを変させ感染対策や経済回復を担う行政はスピードに加え、的確さと柔軟性が求められた。国内で

3年。未曾有の事態への対応に地方自治体は住民ニーズを聞きながらの対応が続く。感染者数の把握、PCR検査、外出自粛要請、飲食店などへの休業・時短営業要請、ワクチン接種、経済対策…。政府主導の対策が打ち出され、中で状況は刻々と変化し、地方行政は力量が問われた。新聞報道もまた、的確かつ迅速なニーズ対応が求められた。流行波を重ねる中で読者はじめの関心事項も変化。多様なデータ提供と分析を基本としている。今求められている情報は何かを見極めながら報道を続けていた。流行波を重ねる中で読者に迫っている。感染の封じ込めと社会活動を停滞させないことを両立する手段は確立されないが、自治体を少しでも活性化させていく必要がある。先行きが見えない中で暮らす取り残されている人はいない。

しかし、「行政の支援が届かず」として、「行政の支援が届かず取り残されている人はいない」という声はさまざまであり、それらを記事化することで行政なども問題提起していくべきだ。届く声はさまざまであり、それらを記事化することで行政なども問題提起していくべきだ。

迅速、的確な情報提供

【1年、佐々木美和さん】コロナで高校生の頃からさまざまなことを制限されたので、少しでも良い方向に向いていければいいと思う。身体的、社会的に苦しい生活を強いられている人が認知される報道をすると、行政も動くのではないかと考えている。

【2年、西村皇希さん】個々（1人暮らし、高齢者世帯など）のニーズに合わせ、コロナウイルスに対する正しい知識を持ってもらうための情報提供を継続すると助かる人も多いのではないか。

【1年、後藤七望さん】新

聞には私たち一般市民の視点から報道してほしい。全国的なニュースも大切だが、身近な視点からの報道は助かる。

【1年、鎌田倭さん】行政には感染対策はもちろん、停滞している経済を立て直し、コロナ禍前の状態に戻せるような政策を取ってほしい。新聞はより良い政策を行なうよう行政に働きかけ、それらの政策がどのようなものなのかを詳しく報道してほしい。

【1年、安部美咲さん】学生生活が充実したものになるような政策を取ってほしい。新聞にはコロナ禍における地域の人々の暮らしや声を正確に報道することを望む。

（18日の講義から）

学生の感想

（18日の講義から）

令和4年（2022年）11月24日（木）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（8）～公立大学時事問題講義から 社会の転換点

宮日と考える

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽8

新聞は日々のニュースを記録しており、詳細な歴史書としての側面も持つ。その時は分からなくても、後になって何げない記事が歴史や社会の転換点

戸高 大輔（とだか・だいすけ）編集局次長。1992年入社。東京支社報道部長。経済部長などを経て2022年4月から現職。宮崎市出身。53歳。

会の転換点を記していたことに気付くかもしれない。例えば、リニア中央新幹線の開業時期（品川→名古屋）を書いた2022年6月9日のベタ記事。当初予定の27年から遅れる可能性があるといふ内容だ。このリニア中央新幹線が開通すると、わずか約1時間の時間距離に人口7千万人を超す巨大経済圏が誕生する。ただし、効果を各地に波及させるには「交通ネットワークや高速道路ネットワークの強化が必要」（国交省検討会）。『強化』が不十分なら本県のような地方都市は恩恵を受けにくく、リニアの開業時期が中央との格差が今以上に広がる転換点となるかもしれない。

新聞が記し歴史書に

最近よく目にするワーキングスペース（共有オフィス）の開業を伝える記事も注目したい。さまざま人が集まる知的交流拠点として化学反応を促し、新しいビジネスの種」を生み出すことができる。転換点を記した記事となるだろう。

転換点の最右翼は新型コロナウイルス。リモート、地方回帰など、暮らしぶりを変えられる可能性のあるキーワードが既にいくつも浮上している。ロシアによるウクライナ侵攻によっては、安全保障環境の転換期となるかもしれない。

学生の感想

【1年、砂田菜々子さん】私が思う転換点は新型コロナウイルス。高校1年の終わりのころに始まり、修学旅行や部活など青春が失われた感じだった。これから社会が良い方向に転換することを願っている。

【1年、福島未来さん】スマホの登場で私たちの生活はとても便利になり、これも時代の転換点だと思う。一方でSNSを通して問題が増え、持つ持たないで情報格差も生まれるなど悪い点もある。

【1年、田上栄菜さん】正直に言うと、なぜ新聞を読む

のがいいのか分からなかった。しかし、社会の動向や伸びてくる業種を予測できるからだということに気付いた。

【1年、吉良心那さん】自分も大分出身で、宮崎と同様に新幹線が開通しておらず不便を感じている。開通すれば多くの人が利用するようになるので、時代の転換点になると考える。

【2年、保萌生さん】最近は特に時代の転換点が多いと感じる。コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻、安倍元首相の暗殺、インフレと円安などに直面しているが、新聞などで情報を得て当事者意識を強めていきたい。

（23日の講義から）

令和4年（2022年）11月26日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（9）～公立大学時事問題講義から

コロナ禍の中小企業

宮崎の明日
（公立大時事問題講義から）

△△9

諫山 尚（いさやま・なお）
（同）経済部編委員
1994年入社。串間支局長、報道部編集委員などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。

得意分野に磨きをかけて新たな価値を生み、コロナ禍の人口減・高齢化社会を生き抜く県内中小企業を紹介する。銅合金鍛造などの船舶用部品を手がける日向キャスティング（日向市東郷町）は技術力を料理鍋など生活用品に転用。2千円続く铸物の技法を得意分野に磨きをかけて新たな価値を生み、コロナ禍の人口減・高齢化社会を生き抜く県内中小企業を紹介する。銅合金鍛造などの船舶用部品を手がける日向キャスティング（日向市東郷町）は技術力を料理鍋など生活用品に転用。2千円続く铸物の技法を

環境を整えるため、グループ会社が企業主導型保育園を運営するソリューションズ（宮崎市）は自園給食の蓄積を基にIT企業では異色の離乳食製造・販売事業に進出した。建物防水事業が主力の宮防（同）が着手したコオロギ昆蟲食は県産ちりめんじやこを食べさせ、カルシウム含有量を高めて他産と差別化。自社製の除菌消臭剤で飼育場の衛生な環境を保つシナジー効果も發揮する。小麦アレルギーの子どもを放つておけない

課題に多様な打開策

と、独自米粉麺を開発した川北製麺（串間市）は国内外の販路をぐいぐい切り開く。グループ会社が企業主導型保育園を運営するソリューションズ（宮崎市）は自園給食の蓄積を基にIT企業では異色の離乳食製造・販売事業に進出した。建物防水事業が主力の宮防（同）が着手したコオロギ昆蟲食は県産ちりめんじやこを食べさせ、カルシウム含有量を高めて他産と差別化。自社製の除菌消臭剤で飼育場の衛生な環境を保つシナジー効果も發揮する。小麦アレルギーの子どもを放つておけない

学生の感想

【1年、今村日向子さん】従来の事業の固定観念を取り払うことで新事業の成功につながっている。発想の転換がピンチに陥った会社を成長させる大切な要因を感じた。

【1年、濱川咲笑さん】I T企業の離乳食事業が印象に残った。アフターコロナも強みになるビジネス。自分もピングの時は少し考えを変え、解決策を見つけていきたい。

【1年、濱崎この葉さん】不透明な先行きを明るく照らす事業に感銘を受けた。日本は食料や原料の多くを輸入に頼っており、資材高騰の今こ

そ、少しでも国内で自給自足できるようになるといい。

【1年、山口あいりさん】新しい分野への進出は勇気が

いるが、思考を変え対応していく姿勢は勉強になる。工夫を凝らして困難を乗り越えようとする企業を応援したい。

【1年、湯浅美礼さん】铸物シリーズなど、コロナを背景にさまざまな特徴的な商品が生まれていることが分かった。商品の作り手の思いにもっと注目していきたい。

【1年、吉田智貴さん】利他の精神で自社の利益につなげる会社が増え、成長していくことは消費者にもいい影響を与える。WIN-WINの関係はとても良い傾向と思う。
(25日の講義から)

令和4年（2022年）12月3日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（10）～公立大学時事問題講義から スポーツと地域

宮崎の明日

公立大時事問題講義から

▽▽ 10

スポーツと地域

部次長、報道部次長などを経て2018年から現職。宮崎市出身。51歳。

部次長、報道部次長などを経て2018年から現職。宮崎市出身。51歳。

合宿の経済効果実感

部次長、報道部次長などを経て2018年から現職。宮崎市出身。51歳。

学生の感想

【1年、佐々木美和さん】競技場などが造られて宮崎の選手が成長し、キャンプや大会も地域で盛り上げられるといい。そういう循環が、宮崎の魅力になるのでは。

【1年、森楓華さん】高校の4校定期戦をきっかけにスポーツ観戦に興味を持った。きっかけがあると行きやすくなるので、県外から来る友人に声をかけるなどしたい。

【1年、西村和さん】高校でラグビーをしていて、野球やサッカー観戦が趣味。国民スポーツ大会が宮崎で開かれれば、見に行ったり、ボラン

ト11月にプロ野球・福岡ソフトバンクホークスと巨人が宮崎市で秋季キャンプを行い、ファンも足を運んだ。これまで新型コロナウイルス感染

大山 優郎（おおやま・ゆうろう）運動部長。1995年入社。高鍋町長。

元経済への影響も大きく、「スポーツランドみやざき」というキャッチフレーズを受け入れてきたスポーツキャンプ・合宿がなくてはならないものだと改めて感じさせた。本県では27年に、国民スポーツ大会（国スポ、24年に国体から改称）と全国障害者スポーツ大会（障スポ）が開かれる予定。国体は注目度の低下など課題はあるが、会場となる陸上競技場や体育館、ホールの新設が進んでおり、大会後の利活用が課題となる。

元競技力向上の取り組みも本格化前に比べ来場者は激減。地元は有観客だったが県外往来自由要請が出ており、コロナ禍前に比べ来場者は激減。地元経済への影響も大きく、「スポーツランドみやざき」というキャッチフレーズを受け入れてきたスポーツキャンプ・合宿がなくてはならないものだと改めて感じさせた。本県では27年に、国民スポーツ大会（国スポ、24年に国体から改称）と全国障害者スポーツ大会（障スポ）が開かれる予定。国体は注目度の低

化しており、そこで力を付けた選手が指導者となれば、後進の育成につながる。本番だけでなく、施設整備や人材育成がその後につながっていくことが大切だ。

県内はこれまでプロスポーツチームがなかったが昨年、サッカー・Jリーグ3部（J3）にデゲバジャーロ宮崎が参入。野球の九州独立リーグへ来季参戦するチームも誕生し、女子サッカーチーム「ヴァイアマテラス宮崎」は将来のプロリーグ昇格を目指している。こうした動きにより、地域でスポーツを楽しむような土壤ができるいくといい。より高いレベルを目指す地元の子どもたちの目標となること

ティアとして関われば。
【2年、西村皇希さん】高校時代は山岳部。多角的な分野の知識を必要とするスポーツとして紹介していきたい。プロチーム発足は経済の循環に有効なので応援していく。

【1年、濱砂慧花さん】大会の経済効果などを考えながらスポーツに関わりたい。県知事選で「スポーツランドみやざき」に各候補者がどれだけ言及するか、注目する。

【1年、工藤海翔さん】サッカーのキャンプを小学生のころに見学し、モチベーションが高まった。大会やキャンプでは、会場やテレビの前で声援を送っていきたい。
(2日の講義から)

令和4年（2022年）12月10日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（11）～公立大学時事問題講義から
実名報道

宮崎の明日
～公立大時事問題講義から～

▽▽ 11

宮日と考える

新聞には毎日たくさん人の名前が載る。選挙、街の話題、事件、事故、報道は実名が原則。それは国民が社会で何が起きているのかを把握する「知る権利」に応えるためで、「当事者が誰か」は最も重要な要素の一つといえる。

ただ、プライバシー侵害や二次被害の恐れがある場合などは例外的に匿名とする。とはいっても、簡単な綴りができる間題ではなく、さまざまなもので、さまざまな事情を踏まえて判断する。

2016年7月に相模原市の障害者施設で入所者ら19人が殺害された事件では、神奈川県警が遺族の希望として被害者の氏名を非公表とした。特別視自体が差別だ、被害が数字でしか伝わらないといふ意見の一方、遺族が知られたかったが、対応は分かれた。かつたが、対応は分かれた。被写真とともに実名を報道されるのは身元がばれるようで怖く、できれば避けたい。社によって実名か匿名か異なることがあるのは知らなかつた。

【1年、鎌田倭さん】プライバシー保護も重要だが、被害者等の情報は遺族の申し出がなければ実名報道すべきだ。最期が名前も出されず静かに終わってしまうのは犠牲者として無念だと思う。

【1年、樋脇愛さん】顔写真とともに実名を報道されるのは身元がばれるようで怖く、できれば避けたい。社によって実名か匿名か異なることがあるのは知らなかつた。

【1年、西原隆悟さん】園児虐待事件で逮捕された保育士が実名で写真付き（の社もあった）のには驚いた。保護者側、保育士側の気持ちを考えると複雑だ。

（9日の講義から）

実名報道

足立 希（あだち・のぞみ）
報道部 次長。1998年入社。
長。1998年入社。
理部、地域情報部次長、報道部次長。
部次長などを経て2021年、総務整備部
から現職。宮崎市出身。46歳。

「当事者」を知る要素

は、個人情報保護との兼ね合いで県の所在不明者の公表が一時混乱。公表すると迅速な情報収集につながつた。

今年4月からは、起訴された18、19歳は「特定少年」として実名報道が可能に。全国で甲府市の夫婦殺害事件、18歳は「特定少年」として実名報道が可能に。全国で甲府市の夫婦殺害事件、県内では宮崎市の民家強盗事件の容疑者が初めての対象となり、実名報道した社が多かった。実名報道した社が多かった。実名報道した社が多かつたが、対応は分かれた。被写真とともに実名を報道されるのは身元がばれるようで怖く、できれば避けたい。社によって実名か匿名か異なることがあるのは知らなかつた。

【1年、川口倫加さん】ソウル雑踏事故で亡くなった日本人留学生の遺族が名前を公表し、娘とこの事故を忘れないでとおしゃっていた。名前を公表することは大きな意味を持つのだと分かった。

【1年、濱川咲笑さん】逮捕され実名を報道した後に無罪となつても人間関係が壊れたり社会的地位に影響が出たりすることは避けられない。実名報道は裁判で有罪判決が出てからでもいいのでは。

【2年、平床紀貴さん】個人的には罪を犯した人の社会復帰が難しくなるため、実名報道は必要ないと思う。

学生の感想

【1年、川口倫加さん】ソウル雑踏事故で亡くなった日本人留学生の遺族が名前を公表し、娘とこの事故を忘れないでとおしゃっていた。名前を公表することは大きな意味を持つのだと分かった。

【1年、濱川咲笑さん】逮捕され実名を報道した後に無罪となつても人間関係が壊れたり社会的地位に影響が出たりすることは避けられない。実名報道は裁判で有罪判決が出てからでもいいのでは。

【2年、平床紀貴さん】個人的には罪を犯した人の社会復帰が難しくなるため、実名報道は必要ないと思う。

令和4年（2022年）12月17日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（12）～公立大学時事問題講義から

「国文祭・芸文祭」から1年

現職。
支社、生活文化部、報道部、西都支局長などを経て高鍋町出身。48歳。

杉田 亨一（すぎた・きよいち）2000年入社。文化部（現）次生



県を挙げて取り組んだ「国文祭・芸文祭」がやさぎ2020が閉幕してから、今年10月で丸1年を迎えた。これに合わせ、本紙文化面で「主役」

宮崎の明日

（公立大学時事問題講義から）

▽▽ 12

「国文祭・芸文祭」から1年

たちの現在地」と題した企画（3回続）を掲載した。両祭に携わった出演者や裏方、行政の担当者ら「主役」たちを取材したが、両祭を通じて本県の文化・芸術界が確かに手にしたものや、抱えている課題の一端が見えてきた。地域や団体によつては、大会で高まつた機運や人的ネットワークは健在だった。西都市内の五つの神楽保存会は両祭に合わせて立ち上げた組織を存続し、今年も合同公演を実現させた。県聴覚障害者協会は、関係を深めた映像作家と連携し、映画作りに着手している。両祭の収穫を生かして、次のステージへ進もうとするこれらの動きが出来てゐることを頼もしく感じる。

継続的な振興策重要

喜んでばかりもいられない。社会が忙しくなつたことなど背景に、地域の文化活動に加わる若者や働く世代は少なくなつていて。劇や音楽関係者は、新型コロナへの警戒感からかキヤストや団員集めに苦労しているようだ。県は本年度、両祭の遺産を将来につなげる事業を開始したが、足元の文化状況に丁寧に目配りし、継続して振興策を打つことが重要だろう。

先日、「五ヶ瀬の荒踊」が、足元の文化状況に丁寧に目配りし、継続して振興策を打つことが重要だろう。市連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録された。地元住民が受け継いできた伝統芸能を、文化行政が学術的に価値付けした末の朗報だろう。今後の文化・芸術振興の追い風となる。

学生の感想

【1年、鎌田倭さん】小学5年生の頃から素晴らしい文化に触れる機会を増やすことが、次世代に地域の文化・芸術を継承していくことにもつながる。授業などでさまざまな企画をすると関心が持てそう。

【1年、柏田彩花さん】次世代に文化・芸術をつなげるためには、全国規模のイベントで共演、交流する場もいいが、VR（仮想現実）などの技術を利用して若者に体験してもらうことも大切になるのではないか。

【1年、安部美咲さん】障害者と健常者を結ぶ架け橋に

なるのが文化や芸術。以前、障害のある子どもたちと共同制作したが、彼らの豊かな心を知る良い機会になった。

【1年、吉良心那さん】宮崎の文化・芸術の継承には、取り組みを細くても長く続けていくことが大切。行事が終わっても、全てを終了にするのではなく、少しでも新しい取り組みを行うと、さらに盛り上がる。

【1年、今村日向子さん】文化・芸術は、障害の有無にかかわらず楽しめるべきものであるべきだ。協力して活動することでさまざまな見方ができ、それが共生社会実現へのヒントになる。

（16日の講義から）

令和5年（2023年）1月22日（日）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（13）～公立大学時事問題講義から

知事選

佐賀 信行（さが・のぶゆき）報道部次長。2020年入社。校閲部、報道部、経済部、えびの支局などを経て現職。延岡市出身。



43歳。2020年から現職。延岡市出身。

現職の河野俊嗣氏と元職の東国原英夫氏が軸となつた昨年12月25日投開票の知事選は、知事経験者が相まみえ、組織戦を展開する河野氏に対し、東国原氏が驚異的な追い上げを見せるなど、異例の戦いとなつた。SNSや動画投稿

▽▽ 13 知事選

河野氏25万8646票、東國原氏23万5602票と民意が一分した選挙戦後、河野氏は「第2期河野県政という覚悟を持って臨む。政治家としても変わらなければならぬ。当選はゴールではない。当選はゴールではない」と決意を述べた。任期4年目は21日から。県民所得の向上や人口減少対策、ウイズコロナの社会づくりなど課題が山積する中、かじ取り役として負託にどう応えるのか。それをチェックするのも有権者の役割。県政への関心を高め、向き合ってほしい。

33.90%に落ち込んだ投票率は、平成以降9回行われた知事選で3番目に高い56.69%に上昇した。

現、元職 異例の争い

【1年、川原ななさん】県政や政治により注目していかなければならぬないと感じた。昨年12月の知事選では投票率が上昇し、県民が県政に高い期待度を持っていることを示していたと思う。私もその一人。高齢者だけでなく、若者の未来も考えた策や宮崎の知名度アップ、地域活性化などにスピード感を持って取り組んでほしい。

【1年、高城結衣さん】投票率が低いままでは国民の意思も反映されなくなってしまうので、今、選挙啓発部「ライツ」で行っている啓発運動にもっと力を入れ、若い人が

学生の感想

自分の意思を国に届けられるように努めたい。今の日本の政治の現状を理解して改善点を知っておくためにも、もっと政治に興味が持てるような取り組みが必要だと思った。

【1年、吉良心那さん】選挙権を持ってから政治をより自分の身近に感じるようになった。今回の知事選は新聞やネットニュースで動向を見ていた。調べるうちに、どのような政治を提示しているかに 관심を持った。

【1年、山口あいりさん】身の回りで選挙に関する話をする機会がないことが、若者の選挙に対する関心のなさの要因だと考えた。

（20日の講義から）

令和 5 年（2023 年） 1 月 22 日（日）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（14）～公立大学時事問題講義から 　　口蹄疫と新型コロナ

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

期などが要請された。宿泊施設の予約がキャンセルとなり、繁華街からは人の姿がなくなるなど、畜産関係者以外の県民も影響を受けた。

▽▽14

2010年4月20日に本県

で発生が確認された口蹄疫

は、児湯郡を中心急速に広

がり終息するまでに約4ヶ月

かかった。県は感染拡大に歯

止めをかけるため、独自の非

常事態宣言を発令し、不要不

急の外出自粛やイベントの延

延期などが要請された。宿泊施

設の予約がキャンセルとな

り、繁華街からは人の姿がな

くなるなど、畜産関係者以外

の県民も影響を受けた。

この風評被害は、宮崎市の農

家は「ワイルスが付着している」とキャベツの出荷を断られ、経済的に打撃を受けている。また家畜や飼料を運ぶ県

西部の業者のトラックは、県外を走っていると石を投げられ、警察に通報されたこともあった。

同じような状況は、新型コ

ロナウイルス禍でも起こっ

た。宮崎市のスナックはSN

S上にコロナにまつわる根拠

のない情報が投稿され、店に

批判的電話が相次いだ。ク

口蹄疫と新型コロナ

（にいさか・ひ道部次長）

（2003年入社、日南支

部、報道部、小林支局などを

経て22年から現職。宮崎市佐

原町出身。41歳。

冷静に情報の選択を

ラスター（感染者集団）が発生した施設の職員は、濃厚接触者ではなかったものの、保育園に通う子どもは登園を拒まれた。誤った情報によって、生活に影響を受けた当事者は心を痛めていた。本県はウイルスの脅威を度々経験している。目に見えないウイルスへの恐怖心や不安から冷静な判断力を失うこと、が、誤った情報の発信や行動につながると識者は指摘する。SNSが普及した現在は、根拠のない情報が流れやすい状況にあり、風評被害が起くるリスクは高まっています。被害を防ぎ、誤った情報を翻弄されないためにも、メディアリテラシーを身に付けすることが求められている。

学生の感想

【1年、奈須成美さん】 SNSを利用する中で、最初は一つだけだった臆測や意見が、事実として多くの人によって発信されてしまっていることを見たことがある。信じて良い情報なのか見極めることが重要だと改めて感じた。発信元の分からぬ情報に流されないように注意する。

【1年、柏田彩花さん】 コロナ感染が初めて確認されたとき、口蹄疫と同じように風評被害や差別など、人の心を傷つけることがたくさんあったと思い出した。不安だからといって人を攻撃したり、誤

った情報を信じて行動したりするのは好ましくない。

【1年、西永陽菜さん】 マスクは健康に良くないなど、真偽が分からぬ情報をSNSで見た。ウイルスは目に見えないからこそ、自分が感染するか分からぬという不安に陥る。その情報が本当に正しいのか、自分なりに調べることが重要と考えている。

【1年、樋脇愛さん】 ワクチンにチップが入っているといった情報に惑わされ、接種するか迷った。コロナの情報をSNSで目にすることが多い。今は誰でも情報を発信できるということを考えて、判断することを心がけたい。

（20日の講義から）

令和5年（2023年）1月28日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（15）～公立大学時事問題講義から
ネットメディアと新聞

宮日と考える
公立大時事問題講義から
宮崎の明日

▽▽ 15

伝統的なメディアである新聞も、デジタル化の波を受けてさまざまなサービスをインターネット上で展開している。なかでも新聞社の発信する。なかでも新聞社の発信す

時任 達也（ときひさし・たつや）デジタル企画部次長。1997年入社。7年間、総務部、事業部などを経て2012年4月より現職。えびの市出身。

ネットメディアと新聞

るニュースは信頼性が高く、今後もさらにニーズが高まつていくと思われる。一方、新聞社が記事を配信している巨大プラットフォームやニュースアプリを運営する大企業との収益の不均衡が課題となっている。記事への正當な対価という点で、双方の話し合いが引き続き必要になってくるだろう。

また、個人情報の保護を目的とする法律が国内外で制定されており、インターネット上で収集した情報の第三者への提供や、ネットワーク広告の見分けが難しくなっているため、より一層気をつけなければならぬと思った。

情報うまく活用して

次第にサイト内の文脈に即した「コンテキスト広告」に置き換わっていくと思われる。個人においても自分と同じ意見が反響、拡大する「エコマーケティング」や、興味や関心のあるニュースや意見しか入ってこない「フィルターバブル」など特有の現象を理解した上でネットメディアに接する必要がある。情報の発信元の特定や、適切な引用であるかを調べることもミスリードを防ぐ効果がある。ニュースを受信し、SNSを通して拡散することで情報が広がる。個人にも責任を負うため、発信主体の確認などをネット・リテラシーを高め、上手にネットメディアを活用してほしい。||おわり||

学生の感想

【1年、猪野風音さん】正しい情報と同じぐらい誤った情報があるので、見分ける力が必要だと感じた。質く生きるために見極める力が必要不可欠だが、最近は正しいニュースかフェイクニュースかの見分けが難しくなっているため、より一層気をつけなければならないと思った。

【1年、森楓華さん】デジタルメディアは、関心のある分野を見つけやすいので非常に便利だ。しかし、一部の意見やニュースしか入らない可能性がある。入ってくる情報に偏りが出てくるため、意識

的にさまざまな情報を取り入れ、比較する必要がある。

【1年、宮澤功さん】発信する側は、デマやフェイクニュースを流さないようにしなければならない。さらに受け取る側も、その可能性があることを常に頭に入れた上で、利用しなければならない。

【1年、山口航史さん】デジタルメディアの功罪を知った。SNSでニュースを取得しているが、それを他のメディアのニュースと比較して確かめることをしていなかった。フェイクニュースや自分たちにとって都合の良いニュースがSNSには広がっているため、真偽を見極める力が必要だ。（27日の講義から）